



前に進む力となるものを見つけ  
ることが大切  
それが私には水泳なんです



HITO

## 本村洋介さん

(シドニー・パラリンピック出場)

10月18日からシドニーで開催されるパラリンピックに、高十見にお住まいの本村洋介さんが競泳の日本代表として出場します。

本村さんが水泳競技を始めたのは、中学校の部活動。当時から県大会へ出場するほどの実力でした。高校生のときの病気で義足での生活を余儀なくされ、競技から遠ざかっていたのですが、大学進学とともに水泳部に入部し、障害者の国体で好成績をおさめたのをきっかけに、本格的に再開しました。そして、社会人になっても水泳競技を続けてきた本村さんは、昨年開催されたプレパラリンピックで好タイムを記録し、見事代表の座を勝ち取ったのです。今までの競技生活の中で、印象に残った大会は、一昨年、ニュージーランドで開催された国際大会だそう

「私にとって、水泳は生活の一部です。それは歩くことと同じくらい当たり前のことなんです。」と笑顔で話してくださいました。パラリンピックでは、100m背泳ぎ、400mフリーレー、400mメドレーレーに出場されます。持てる力を余すことなく発揮してください。



です。400mの自由形では、当時の世界チャンピオンに50mもの大差をつけられ、タイムの差を実際の距離として認識させられました。しかし、背泳ぎでは世界の一流選手と差のないレースができました。シヨックも受けましたが、自信にもなった大会です。」と振り返ります。また、海外のレースで実力を出し切るためには、環境の変化に耐えられるタフな精神力が必要だとおっしゃいます。「レースも練習もつらい時はありますが、いつもプラスに転じて考えるように、先につながるイメージを持ち続けるようにしています。」「毎日3km以上泳ぐ厳しい練習に耐え、33歳になった現在でもタイムを更新し続けているのもその証でしょう。」

「良い記録を出すためには、力まずにリラックスすること。」という言葉が、本村さんの人柄をよく表しています。パラリンピックという世界最高の舞台で持てる力を存分に発揮し、悔いのない、印象に残るレースをして欲しいと思います。

## 狭山の生態系

66

### シマセンニユウ

(スズメ目ヒタキ科ウグイス亜科)

全長15・5cm。雌雄同色で上面はオリーブ褐色、下面は灰白色、淡色の肩斑で、尾が円尾のあまり目立たないウグイスの仲間のこの鳥は、カムチャツカ半島・オホーツク沿岸・サハリン・千島列島北海道などで繁殖し、フィリピン・ポルネオ島などで越冬します。本州や九州では春秋の渡りの際に通過します。草原の中に生息するので見つけにくい鳥ですが、北海道の原生花園では短い飛翔をしたり、枯れ茎にとまって「チュルルチュカチュカ…」とさえずるのを見ることが出来ます。市内では人間川の河川敷で秋の渡りシーズンに記録されています。



撮影：県生態系保護協会狭山支部  
矢内昭夫さん（水野）